



データを複数拠点にバックアップ
リスク分散型データ保存・業務継続計画

バックアップの重要確認項目

《経営者・総務の方向け》

1. バックアップが取れているか簡単に確認できる
2. リストアの手法が明確である
3. 人に依存しない（複数人のエンジニア、または協力会社と共同で行う）
4. 計画的に訓練を行う
5. 同じ場所にバックアップをしない

《エンジニア・システム管理者向け》

1. 本当にバックアップ取れているか？
2. バックアップ・リストアの手順は単純でマニュアル化してあるか？
3. トラブル時の切り替え時がエンジニアに依存していないか？
4. バックアップがトラブルを起こした時の対応を考えているか？
5. 困ったときに連絡する場所があるか？相談できるところはあるか？
6. システムトラブル時のリスクを明確に把握しているか？

業務継続計画作成時のリスク計算

C. I. A（情報セキュリティの三大要素）の運用を維持しつつも現実性のあるシステム構築が必要。

リスクを明確化することによる防護策はレベルを設定しレベル毎のマニュアル化を徹底する。

事故が起こったことを想定した定期的な切り替え運用が必須とされる。

システムリスク : ハードウェア・OS・ソフトウェアに関するリスク

データリスク : 蓄積データに関するリスク

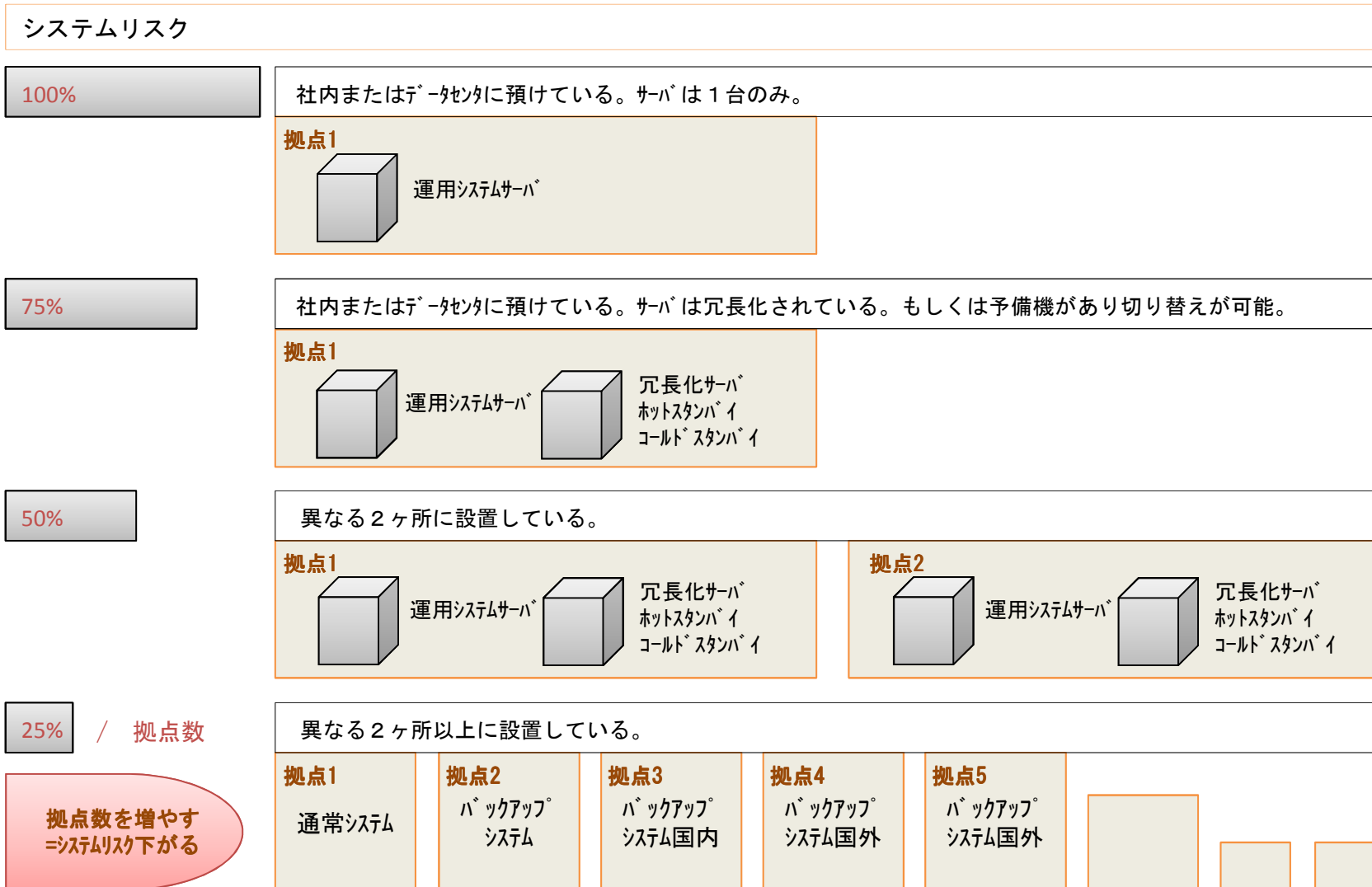
テクニカルリスク : 技術者に依存するリスク

インフラリスク : 電気・回線等外部資源に関するリスク

●リスクレベルの設定と目標値の設定例





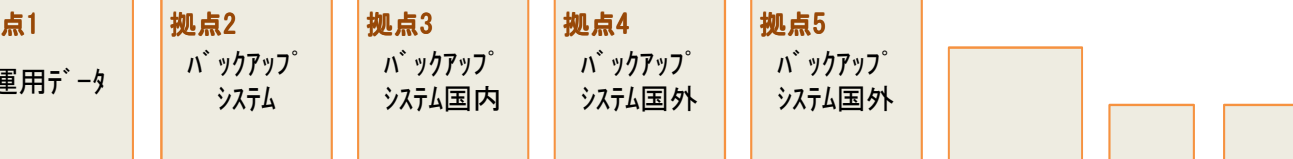
リスクレベル	システムリスク	データリスク	テクニカルリスク	インフラリスク
LEBEL 5	100%	100%	100%	100%
LEBEL 4	75%	75%	75%	75%
LEBEL 3	50%	50%	50%	50%
目標値を維持				
LEBEL 2	25%	25%	25%	25%
LEBEL 1				

業務継続計画作成時のリスク計算 システムリスク



拠点数を増やす
=システムリスク下がる

業務継続計画作成時のリスク計算 データリスク

データリスク	
100%	<p>社内またはデータ預けている。サーバは1台のみ。</p> <p>拠点1</p>  <p>運用データ</p>
75%	<p>社内またはデータに預けている。データサーバは冗長化されている。もしくはバックアップがあり切り替えが可能。</p> <p>拠点1</p>  <p>運用データ 冗長化サーバ バックアップ ホット/コールドスタンバイ</p>
50%	<p>異なる2ヶ所に設置している。</p> <p>拠点1</p>  <p>運用データ 冗長化サーバ ホットスタンバイ コールドスタンバイ</p> <p>拠点2</p>  <p>運用データ 冗長化サーバ ホットスタンバイ コールドスタンバイ</p>
25% / 拠点数	<p>異なる2ヶ所以上に設置している。</p> <p>拠点1</p> <p>運用データ</p> <p>拠点2</p> <p>バックアップシステム</p> <p>拠点3</p> <p>バックアップシステム国内</p> <p>拠点4</p> <p>バックアップシステム国外</p> <p>拠点5</p> <p>バックアップシステム国外</p> 

拠点数を増やす
データリスクが下がる

業務継続計画作成時のリスク計算 テクニカルリスク



拠点数/SEを増やす
=テクニカルリスクが下がる

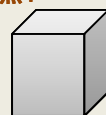
業務継続計画作成時のリスク計算 インフラリスク

インフラリスク

100%

社内またはデータセンターに設置している。拠点は1拠点のみ。

拠点1

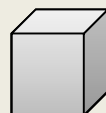


運用拠点

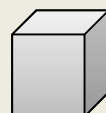
75%

社内またはデータセンターに設置している。回線は冗長化されている。

拠点1



運用拠点
回線A



運用拠点
回線B

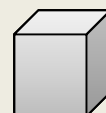
50%

異なる2ヶ所に設置している。

拠点1



運用拠点A
回線A

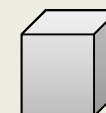


運用拠点
回線B

拠点2



運用拠点B
回線C



運用拠点B
回線D

25% / 拠点数

異なる2ヶ所以上に設置している。

拠点1

通常システム

拠点2

バックアップ
システム

拠点3

バックアップ
システム国内

拠点4

バックアップ
システム国外

拠点5

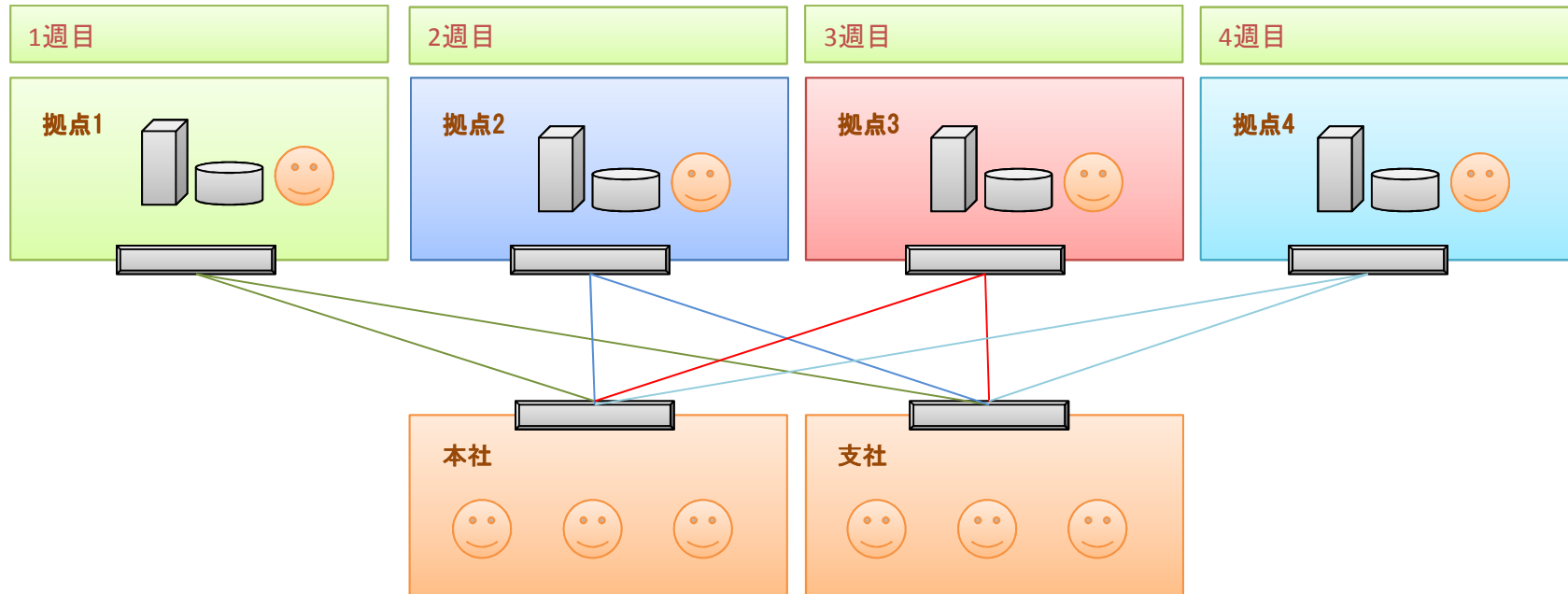
バックアップ
システム国外

拠点数/回線を増やす
=インフラリスクが下がる

通常業務の中でサービス拠点を順番に切り替える運用

業務を継続する中で必要なことは、日常の運用規則。切り替えることが運用になれば全体的なリスクも減る。

月間スケジュール



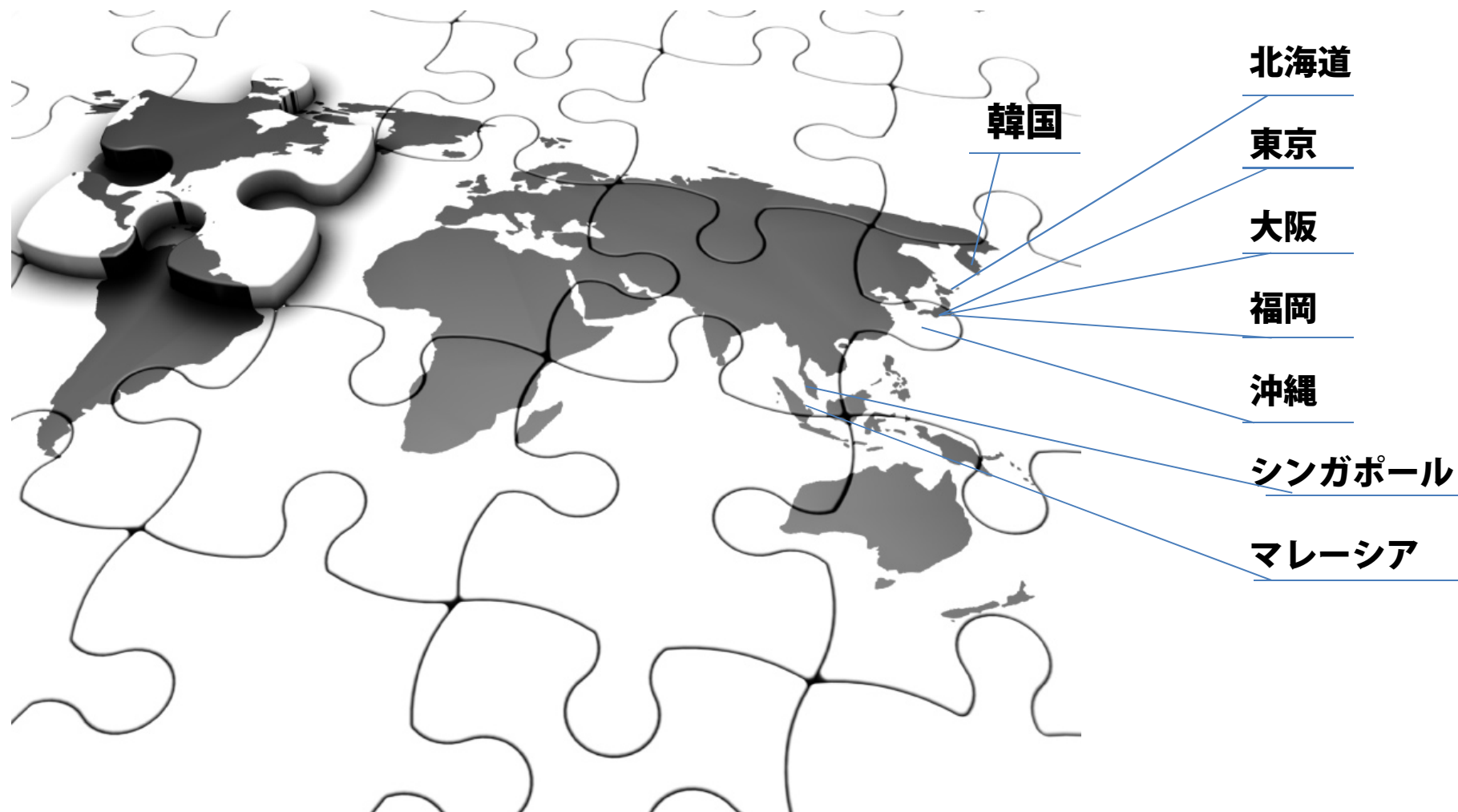
トラブルが起きる時に慌てたり余計な事を考えることが一番危険な事。
運用の中で切り替え業務が完結していれば、ほとんどの**障害を最小限**にすることができる。

ハードウェア障害 データ障害 回線障害 自然災害

拠点に関しては国内でもなるべく離れた場所へ。通信インフラも整ってきた国外への拠点設置も効果が高い。

提供中のサービス拠点

日本国内、国外での運用をサポート



御見積について

運用サービスレベルによってお見積が異なります。
各センターの空き具合により納期が異なります。通常1カ月～ 1カ月半です。

詳細はお問い合わせください。

株式会社フェニクス
〒111-0051 東京都台東区蔵前3-15-7
Tel:03-5835-3710 Fax:03-5835-3710

